

## 自分の考えや気持ちを表現できる児童を育成する

### 小学校外国語科学習指導

#### —考えながら伝え合う学習活動と会話をつなぐ指導を通して—

前橋市立宮城小学校 古口 晃敬

本研究は、小学校外国語科において考えながら伝え合う学習活動と会話をつなぐ指導を通して、「自分の考えや気持ちを表現できる児童の育成」を目指すものである。そのために第6学年で以下の実践を行い、結果を検証した。

- ① 児童が伝えたい内容や会話に必要な表現を考えながら伝え合うために、1単位時間の学習過程に「見通しをもつティーチャートーク」と「言語活動1→中間評価→言語活動2」という学習活動（考えながら伝え合う学習活動）を設定した。
- ② 会話を支えるコミュニケーションを円滑にする力を高めるために、1単位時間の導入の帯活動として、会話つなゲットタイムという言語活動を位置付け、会話をつなぐ方法を段階的に指導（会話をつなぐ指導）した。

#### I 主題設定の理由

新小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説外国語活動・外国語編（以下「学習指導要領解説」）では、中学校との接続を図ることを重視している。中学校では、令和元年度の全国学力・学習状況調査において、英語での発信力（話すこと）に課題が見られた。英語での発信力を高めるためには、目的・場面・状況等に応じて知識・技能をどのように活用していったらよいか、児童自身が考えながらやり取りすることが大切であると捉える。また、学習指導要領解説では、「児童生徒の学びの過程全体で、知識・技能が実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すこと」と示されている。そのため、小学校段階の外国語教育から、「思考力・判断力・表現力等」を重点的に育成することが喫緊の課題であると言える。

群馬県の「はばたく群馬の指導プランⅡ」では、「単元で、教科書の題材に関連した具体的な課題を設定し、目的・場面・状況等のある言語活動に繰り返し取り組む中で、言語材料を実際のコミュニケーションにおいて活用できる力や情報を整理し表現する力を身に付けることが大切である」と示されている。また、前橋市の「各教科等指導の努力点（外国語科）」では、「児童の理解していることやできることをどのように使わせたいかを明確にし、題材や活動を設定することで、主体的に自分の考えや気持ちを伝え合えるようにする」と示されている。群馬県・前橋市に共通する背景として、児童が話したいと思えるような場面設定・課題設定がなされ、その課題に対して児童自らが主体的に学び、その学びを生かし自分の考えや気持ちを表現することに課題があることが伺える。そのことから、児童の能動的な学びの中で「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指す必要があると考える。

「思考力・判断力・表現力等」を育成するとは、学習指導要領解説では、設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解し、コミュニケーションの見通しを立て、目的達成のため具体的なコミュニケーションを行うこと、また、言語面・内容面で自らの学習を振り返り、既得の知識や経験と、新たな知識を言語活動で活用することで、思考力・判断力・表現力等を高めていくことであると示されている。このことから、児童自身が獲得した知識・技能をどのように活用していくかの見通しをもち、目的・場面・状況等に応じて児童自身が話したい内容を考えながら、繰り返しやり取りを行っていくことが大切であると捉える。

しかし、小学校外国語の授業では、単元の導入で決まった会話のモデルを提示し、それを暗記して発表するような授業が多く展開されている。昨年度の私の授業もその例にもれず、暗記・発表の要素の強い授業であった。また、スモールトーク等で児童がペアでやり取りを行う場面では、あらかじめ与えられたテーマに沿った定型の質問と答えを応対するだけで会話が終わっており、会話をつなげたり、考えながら話したりすることができていない。このような授業では、児童の思考力・判断力・表現力等の育成や、知識・技能の定着は望めず、学習指導要領解説の趣旨に沿った授業とは言い難い。そのため、思考・判断しながら表現する授業への転換が必要であると考えられる。

児童が、思考・判断しながら自分の考えや気持ちを表現するためには、児童自らが話す内容をその場で考えながらやり取りを行っていくように学習活動を工夫すること、また、児童が相手意識をもってやり取りするために、コミュニケーションを円滑にする力を段階的に高めることが必要である。そこで、本研究では児童が自分の考えや気持ちを表現するために、「考えながら伝え合う学習活動」と「会話をつなぐ指導」を行っていく。

以上のことから、考えながら伝え合う学習活動と会話をつなぐ指導を通して、自分の考えや気持ちを表現できる児童を育成することができると考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

小学校外国語科において、自分の考えや気持ちを表現できる児童を育成するために、考えながら伝え合う学習活動と会話をつなぐ指導が有効であることを、実践を通して明らかにする。

## III 研究の見通し

小学校外国語科学習指導において、以下の2つの手立てを講じることで、自分の考えや気持ちを表現できる児童を育成することができるであろう。

### 【手立て1】

#### 考えながら伝え合う学習活動

児童がその場で考えながら自分の考えや気持ちを表現するために、1単位時間の学習過程に「見通しをもつティーチャートーク」と、「言語活動1→中間評価→言語活動2」という2つの学習活動を設定する。

## 【手立て2】

### 会話をつなぐ指導

やり取りを支えるコミュニケーションを円滑にする力を高めるために、会話つなゲットタイムを授業の帯活動に導入し、会話をつなぐ方法を段階的に指導する。

## IV 研究の内容

### 1 基本的な考え方

#### (1) 「自分の考えや気持ちを表現できる」とは

学習指導要領解説(3)話すこと〔やり取り〕イの項目で、「日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする」とある。そこで、本研究では、「自分の考えや気持ちを表現できる」児童の姿を、目的・場面・状況等に応じて、伝えたい内容や自分が必要だと考えた表現(必要な表現)を自由に活用し、相手に配慮しその場で考えながら表現できる児童と捉える。

#### (2) 「【手立て1】考えながら伝え合う学習活動」とは

本研究では、児童が自由に内容や表現を考えながら会話をするため、決まった会話の型を提示せず、伝えたい内容や表現を考えながら、自分の考えや気持ちを表現できる児童を育成する。そのため、「見通しをもつティーチャートーク」と「言語活動1→中間評価→言語活動2」という学習活動を設定することで、児童は伝えたい内容や必要な表現を考えながら自分の考えや気持ちを表現できると考える。手立て1の学習活動は、昨年度までの本研究者が行ってきた決まった会話の型を児童に提示し、それを練習し、児童同士で伝え合う学習活動と大きく異なるため、昨年度の本研究者の学習活動との違いを示す(表1)。

表1 【手立て1】考えながら伝え合う学習活動と昨年度の本研究者

<u>昨年度の本研究者の学習活動</u>	<u>【手立て1】考えながら伝え合う学習活動</u>
(1) 本時のめあてを提示する	(1) 本時の課題をつかむ (見通しをもつティーチャートーク)
(2) 必要な表現や語彙の練習をする (パターンプラクティス、チャンツ等)	(2) 自分で考えてからやってみる (言語活動1)
(3) 決まった表現を与えて言語活動をする ・決まった型通りのやり取り ・決まった通りに相手にインタビュー ・一問一答形式のクイズ 等	(3) 伝える内容や表現を想起する (中間評価) A 内容・表現確認 B ペア作戦タイム
	(4) もう一度やってみる(言語活動2)

#### ア 「見通しをもつティーチャートーク」とは

本研究では、児童が捉えた内容や表現を活用し、自由にやり取りをできるようにするため、「このテーマではこの表現を使いましょう」とは言わず、JTE(日本人の英語指導者)とALTとの会話やJTEと児童との会話の中で本時のめあてを捉え、必要な表現に気付けるようにする。見通しをもつティーチャートークは、児童がやり取りの見通しをもてるように、

JTE が自分自身のことを語りながら質問し、表現を児童に投げかけることで、やり取りに活用できる表現に児童自身が気付けるようにする学習活動である。

## イ 「言語活動1→中間評価→言語活動2」とは

児童が捉えた内容や表現を言語活動1で使ってみて、うまくいったこといかなかったことを児童自身が捉える。それを基に試行錯誤しながら自分のものとした内容・表現を用いて自分の考えや気持ちを表現できるようにするため、「言語活動1→中間評価→言語活動2」という学習活動を設定した。それぞれの具体的な内容は、以下の通りである。

### ○ 自分で考えてからやってみる（言語活動1）

言語活動1は、やり取りの見通しをもった後、自分が伝えたい内容や必要な表現を考え、隣の児童とやり取りを行う活動である。児童はやり取りの中で、考えたことが言えたという思いと、考えたけど英語で言えなかったもどかしい思いを経験する。その経験を基に、児童はやり取りで自分の考えや気持ちを表現するために何が必要かについて考える。

### ○ 使える内容や表現を想起する（中間評価）

中間評価は、言語活動1での児童の困り感を解消するため、やり取りに必要な内容や表現を想起し、言語活動2に取り組めるようにする活動である。授業実践内では、中間評価を「プチふりかえり」と表記している。中間評価の主な活動は以下の2つである。

#### A 内容・表現確認

内容・表現確認は、児童が、伝えたい内容や必要な表現を想起できるようにする活動である。言語活動1のやり取りの様子から伝えたい内容や必要な表現を取り入れている児童を見取り、全体の前で紹介することで、内容・表現への気付きを促す。言語活動1の様子から伝えたい内容が不足している場合には、ピクチャーカード



図1 ピクチャーカードと写真



図2 英語短冊

ードや写真を提示する（図1）。必要な表現が不足している場合には、英語短冊を必要に応じて提示する（図2）。内容・表現確認を行うことで、児童は言語活動1よりも多くの伝えたい内容や必要な表現に触れ、言語活動2で使ってみたいという気持ちを高めることができる。

#### B ペア作戦タイム

ペア作戦タイムは、内容・表現確認で児童が捉えた伝えたい内容や必要な表現を、言語活動2で活用できるようにするために、どのように紹介するかを隣の児童と具体的に考える活動である。この活動を通して、児童は新しく得た内容や表現の使い方を知り、自信をもって言語活動2に臨むことができる。

## ○ もう一度やってみる（言語活動2）

言語活動2は、言語活動1で言いたくても言えなかったことや中間評価で児童が気付いた内容や表現を使いながら、言語活動1と同じテーマで相手とやり取りする活動である。この活動を通して、児童は内容や表現を自分のものとし、自信をもって自分の考えや気持ちを表現することができる。

### (3) 「【手立て2】会話をつなぐ指導」とは

本研究では、コミュニケーションを円滑にする力を高めるため、授業の導入の帯活動に会話つなゲットタイムを導入し、会話をつなぐ方法を段階的に指導する。

会話つなゲットタイムは本研究を通して、研究者が名付けた造語である。学習指導要領解説2内容(3)言語活動及び言語の働きに関する事項②言語の働きに関する事項(ア)言語の使用場面の例(イ)言語の働きの例に、「特有の表現がよく使われる場面を設定し、繰り返し言語活動を行わせる中で、それぞれの言語の働きに応じて指導していくこと」と示されている。そこで、本研究では、言語の使用場面と言語の働き(対話を円滑にする方法)を意識した会話つなゲットタイムを授業の帯活動として導入する。特有の表現(本研究では、必要な表現)が繰り返し活用できる場面として、前時の授業で扱った言語活動に類似する場面を設定してやり取りを行う。また、対話を円滑に行えるようにするために会話をつなぐ方法を段階的に指導する。会話つなゲットタイムの進め方は、表2のとおりである。

本研究では、「外国語研修ガイドブック」に掲載されている対話を続けるための基本的な表現(本研究では、会話をつなぐ方法)から6種類を選び、児童の実態に応じて段階的に指導していく。以下は会話をつなぐ方法の目的・内容(例)である(表3)。

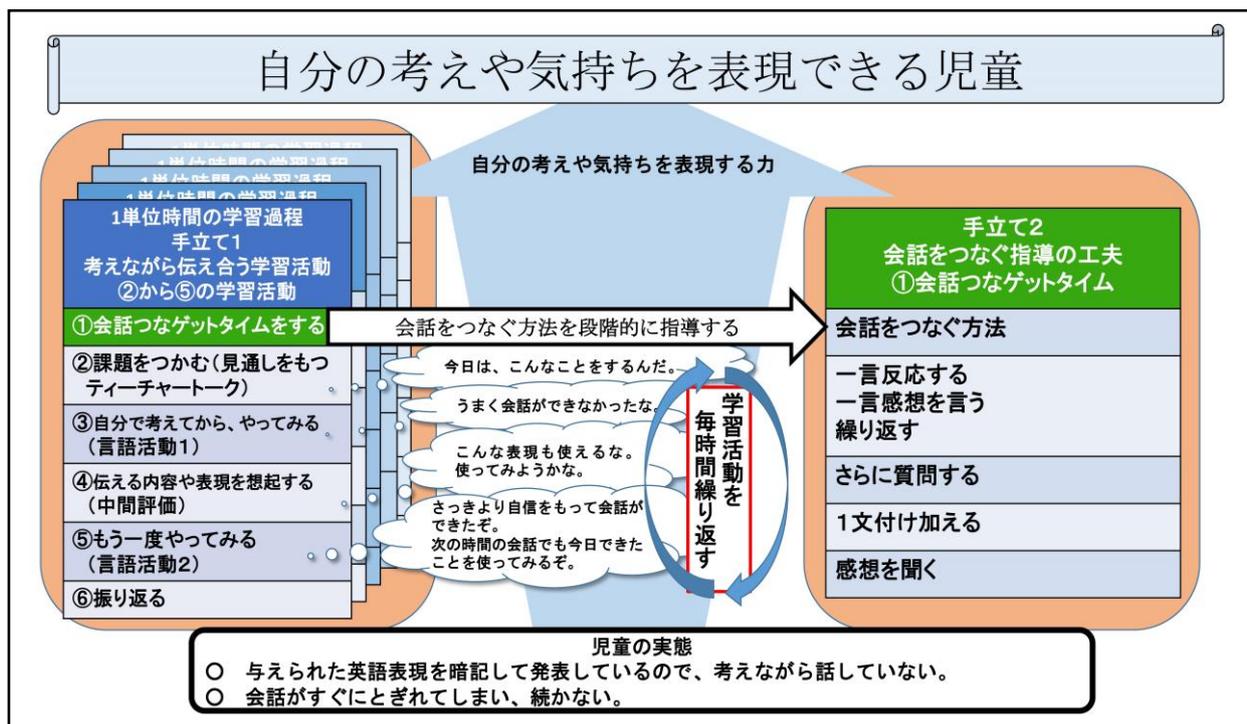
表2 会話つなゲットタイムの進め方

①	教師と児童(ALT)とのやり取り
②	児童と児童の会話1
③	指導
④	児童と児童の会話2

表3 会話をつなぐ方法(例)

会話をつなぐ方法	目的	内容
一言反応する	相手の話した内容について理解していることを伝える。	I see. Me, too. I know. Really? It's your turn.
一言感想を言う	相手の話した内容に自分の感想を簡単に述べる。	Good. Nice. Cool! Great. That's o. It's o.
繰り返す	相手の話した内容の中心となる文や語を繰り返し確かめる。	A: I like apples. B: Oh, <u>you like apples.</u>
さらに質問する	相手の話した内容についてくわしく知るために質問する。	What o do you like? Do you like o? How about you? Why?
一文付け加える	自分の話した内容をくわしく説明する。	I like soccer. <u>I play soccer on Sundays.</u>
感想を聞く	自分の話した内容について感想を聞く。	What do you think about o?

## 2 研究構想図



## V 実践の概要

### 1 実践計画

#### (1) 実践単元

We Can! 2 (Unit4) I like my town.

本研究では、新学習指導要領2内容(3)①言語活動及び言語の働きに関する事項「ウ 話すこと〔やり取り〕(イ)、エ話すこと〔発表〕(ウ)」の項目で実践を行う。

#### (2) 研究対象 協力校 第6学年 授業実践学級 2クラス

#### (3) 授業実践計画

令和元年10月1日(火)～10月25日(金)  
(8時間×2クラス=全16時間)

Unit4の①③⑥時間目のみALTとの2人体制

日程	クラス	内容
10月1日(火)	6年1・2組	We can! 2 unit4①
10月3日(木)4日(金)	6年1・2組	We can! 2 unit4②
10月8日(火)	6年1・2組	We can! 2 unit4③
10月9日(水)	6年1・2組	We can! 2 unit4④
10月10日(木)11日(金)	6年1・2組	We can! 2 unit4⑤
10月15日(火)	6年1・2組	We can! 2 unit4⑥
10月17日(木)18日(金)	6年1・2組	We can! 2 unit4⑦
10月24日(木)25日(金)	6年1・2組	We can! 2 unit4⑧

#### (4) 検証の視点と方法

検証の視点	検証の方法
手立て1 考えながら伝え合う学習活動 目的・場面・状況等に応じて必要な表現や伝えたい内容を考え、その場で考えながら自分の考えや気持ちを表現することに有効であったか。	事前・事後 アンケート、 発表内容、 振り返り シート、 行動観察、 記録ビデオ
手立て2 会話をつなぐ指導 会話つなゲットタイムで学んだ会話をつなぐ方法を活用し、相手に配慮しながら、自分の考えや気持ちを表現することに有効であったか。	

## 2 実践

### (1) 本研究に関わる単元構成

単元名 I like my town. (We Can! 2 Unit 4)		
単元目標 前橋市のよさを表現することができる。(話すこと[やり取り] イ 話すこと[発表] ウ)		
中心となる言語活動 日本を知らない外国の人に前橋市のよい場所を紹介する。		
<b>評価規準</b> <b>知識・技能【知】</b> 前橋市のよさを伝え合う実際のコミュニケーションにおいて、活用できる基礎的な技能を身に付けている。 <b>思考・判断・表現【思】</b> 前橋市のよさを伝えるために、目的・場面・状況等に配慮しながら使える表現を考えたり、選択したりして相手とやり取りしている。 <b>主体的に学習に取り組む態度【主】</b> 相手に伝えたいという思いをもって、前橋市のよさを紹介しようとしている。		
時	本時のねらい	評価規準
1	○学習問題を設定し、必要な表現を考える。 学習問題「外国の人に前橋市のよい所を紹介しよう」	【思】学習問題解決に必要な表現を考えている。(発表、話し合い)
2	○自分が住みたい町を選んで、紹介しよう。	【知】町を紹介するやり取りでWe haveやYou can, I likeなどを使っている。(やり取り、振り返りシート)
3	○場所を選んだ理由を言いながら、場所を紹介することができる。	【知】選んだ理由を明らかにして、自分の紹介したい場所を紹介している。(やり取り、振り返りシート)
4	○ほしい場所を考え、友達に紹介することができる。	【知】新出・既習言語材料を活用してほしい場所を伝えている。(やり取り、振り返りシート)
5	○相手に配慮した場所の紹介の仕方を考えることができる。	【主】ALTIに伝えたいという思いをもって、紹介する内容を考えている。(やり取り、振り返りシート)
6	○相手の好みを聞き、好みに合った場所を紹介することができる。	【思】相手の好みに合わせた表現を使いながら紹介することができる。(やり取り、振り返りシート)
7	○日本を知らない外国の人に合った内容と考えながら、前橋市のよさを紹介したり、質問したりすることができる。	【思】日本を知らない人に、前橋市のよさについて伝えるやり取りをしている。(やり取り、振り返りシート)
8	○テーマに応じた日本独自のものを考えながら、日本を知らない外国の人に前橋市のよさを紹介することができる。	【思】テーマについて考えながら、日本独自のことを取り入れて、前橋市の素晴らしさを伝えている。(やり取り、振り返りシート)

本単元では、場所を紹介するやり取りの中で、児童が伝えたい内容や必要な表現を考えながら自分の考えや気持ちを表現できることを目的としている。また、地域にどのような施設があるか、または、ほしいか、地域のよさは何かを聞いたり紹介したりすることで、自分の地域を知り好きになること、そして帰属意識を高めることも目的としている。

本研究では、1、2、7時間目の児童の思考の変容を示しながら、児童が、どのように自分の考えや気持ちを表現していたかを論じていく。

### (2) 手立て1の実践内容と考察

#### ア 手立て1の実践内容

本研究の手立て1では、学習活動の工夫を通して主題に迫っていく。学習活動とそれに伴う児童の思考の流れを1時間目の実践を通して、具体的に示す。1時間目の学習過程は表4の通りである。手立て1の主な学習活動は②から⑤である。

表4 本研究における学習過程

- |                                  |
|----------------------------------|
| ① 会話つなゲットタイムをする                  |
| ② 本時の課題をつかむ<br>(見通しをもつティーチャートーク) |
| ③ 自分で考えてからやってみる<br>(言語活動1)       |
| ④ 使える内容や表現を想起する (中間評価)           |
| A 内容・表現確認                        |
| B ペア作戦タイム                        |
| ⑤ もう一度やってみる<br>(言語活動2)           |
| ⑥ 振り返る                           |

### ○ 本時の課題をつかむ

本時のめあて『ALTの友達に、宮城小を紹介しよう』を捉え、場所を紹介するやり取りの見通しをもてるように、JTEとALTで役割演技(表5)を行い、児童に伝えたい内容(図3①)を気付かせながら提示した。また、必要な表現に気付けるように、児童に表5下線部の表現を意識して聞かせ、役割演技後に、児童から出された表現を提示した(図3②)。

### ○ 自分で考えてからやってみる

#### (言語活動1)

伝えたい内容や必要な表現を基に、児童は、宮城小の紹介内容を2分間考え、その後隣の児童をALTの友達に見立て紹介した。紹介してみると、英語で言えたことと、言えなかったことに児童自身が気付くことができた。

### ○ 使える内容や表現を想起する(中間評価)

#### A 内容・表現確認

言語活動1で伝えたい内容や表現を確認し、紹介内容を全体で共有した。そして、「児童に宮城小で他に紹介したい場所はないか」と問い、児童から出てきた新たな場所を提示した(図3③)。そして、新たな内容を使ってどのように紹介できるか考えるように促すと、「教室」では「You can eat lunch.」「音楽室」では、「You can study music.」等が児童から出されたので、「You can eat」「You can study」の英語短冊を新たに提示した。

表5 JTEとALTの役割演技

A: ALT's friend	T: JTE
A: I don't know Japanese schools.	
T: OK. I'll show you Miyagi elementary school.	
	<u>We have</u> three pools.
	<u>You can enjoy</u> swimming.
A: Oh, three pools. Nice.	
T: <u>We have</u> a playground.	
	<u>You can play</u> soccer. <u>You can study</u> P.E.
A: Play soccer. I see. Do you have a gym?	
T: Yes, I do. <u>We have</u> a new gym.	
	<u>You can play</u> dodgeball.
A: Thank you.	

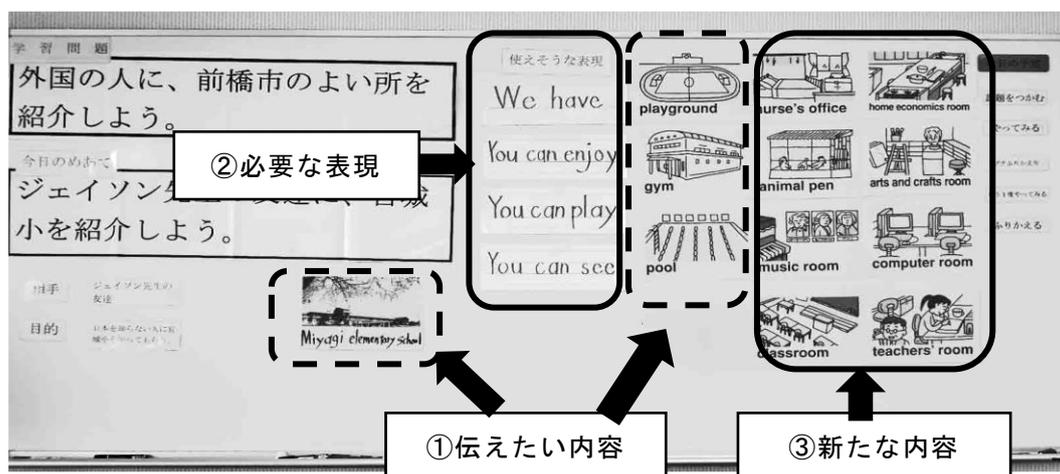


図3 1時間目の板書

#### B ペア作戦タイム

家庭科室・音楽室等の具体的な場面を設定し、その場面でどのようなことをALTの友達に紹介するかをペアで考えることで、「You can study home economics.」や「You can eat miso soup.」など新しく提示された内容や表現を活用して考えている姿が見られた。また、言語活動1でうまく紹介できなかったことについても話し合っている姿が見られた。

## ○ もう一度やってみる（言語活動2）

目的・場面・状況等を変更せず、相手を替えてもう一度やり取りをした。中間評価で新しく提示された内容や表現を活用しながらやり取りをしている児童の姿が多く見られた。

### イ 手立て1における児童の変容についての考察

手立て1の学習活動を通して、児童が試行錯誤しながら自分の考えや気持ちを表現していった様子を、児童Aのやり取りの姿から考察していく(表6)。

#### 児童Aの思考の変容について

言語活動1で、児童Aは体育館を紹介したかったが、施設の有無について表現できる英語表現「We have」しか言うことができなかった。そのことから、「We have」を使えば施設を紹介できるのでという見通しはもてたが、「We have」をどう使えばよいのか分からず言語活動1に臨んでいることが分かる。

中間評価では、児童Bからどんな場所が紹介できるかを聞いて、「music room」について知ることができた。ここで、児童Aは、「We have」と場所「music room」を組み合わせれば紹介ができることに気付いた。

言語活動2では、中間評価で知った「music room」を活用し、「We have」と組み合わせながら紹介している姿が見られた。また、言語活動1で言えなかった体育館も紹介できた。このことから、児童Aが、言語活動2で必要な表現「We have」の使い方を自分のものとして繰り返し活用していることが分かる。「We have」が自分の使える表現になったのは、3つの要因が考えられる。1つ目は、JTEとALTとの役割演技から「We have」が紹介に使えるのではないかと見通しをもてたこと。2つ目は、言語活動1で「We have」を使って体育館を紹介しようとしたが、うまくいかなかったことで、どうしたら体育館を紹介できるのだろうと考えたこと。3つ目は、中間評価を通して、紹介に使える内容や表現に気付き、言語活動2で意識して活用したこと。児童Aは、手立て1の一連の学習活動で伝えたい内容や紹介に必要な表現に気付き、それらの知識・技能をどのように活用すればいいのかを考えながら、自分の考えや気持ちを表現することができたと考える。

### (3) 手立て2の実践内容と考察

#### ア 手立て2の実践内容

手立て2では、授業の帯活動で行う会話つなゲットタイムを活用して、児童のコミュニケーションを円滑にする力を高めた。会話つなゲットタイムでは、単元の2時間目～5時間目に会話をつなぐ方法(次頁表7)を段階的に指導していった。手立て2について2時間目の実践を通して具体的に示す。

表6 児童Aのやり取りの様子(一部抜粋)

#### ○言語活動1での様子

A: We have・・・その後考えているが言えない。

#### ○中間評価(ペア作戦タイム)での様子

B: 体育館とグラウンドとあと1個紹介したい。

A: 音楽室は? We have music.

B: それなら We have music room. だよ。

You can study music. も言えそうだな。

A: Music room も使えそうだね。

#### ○言語活動2での様子

A: We have gym. Enjoy basketball.

We have computer. Enjoy・・・

We have music... music.

B: music room だよ。

A: We have music room. Enjoy piano.

2時間目の会話つなゲットタイムのテーマは、前時『宮城小を紹介しよう』で活用した表現が使いやすいように、『宮城地区の好きな場所を紹介しよう』とした。会話つなゲットタイムの学習の流れは表8のとおりである。

会話をつなぐ方法の指導は、  
 (3)指導の場面で行った。児童は、会話1でうまく会話がつながらない状況を経験することで、会話をつなぐ必要感をもち、会話をつなぐ方法を学ぶことができた。そして、会話2で会話をつなぐ方法を活用できた児童も多くいた。会話2の後、児童に会話をつなぐ方法を活用できたかを聞くことで、児童が次の言語活動(手立て1)で会話をつなぐ方法を意識して取り入れられるようにした。

表7 会話をつなぐ方法

会話つなゲットタイムで指導した会話をつなぐ方法	
<b>2時間目 会話をつなぐ方法①</b> (一言反応する・一言感想を言う・繰り返す) 一言反応する I see. Really? Me, too. I know. It' s my (your) turn. 一言感想を言う Good. Nice. Cool. Great. That' s O. That sounds O. It' s O. 繰り返す A: I like tomatoes. A: Do you like eggs? B: Oh, you like tomatoes. B: Egges? Yes, I do.	
<b>3時間目 会話をつなぐ方法② (さらに質問する)</b> A: I like soccer. A: I can play basketball. <u>How about you?</u> B: <u>Why?</u> B: Basketball? <u>I can' t play basketball.</u> A: <u>Because I like Messi.</u> <児童が質問に活用した疑問文> What O do you like? Do you like O? How about you? Why? (Why do you like it?) What do you want?	
<b>4時間目 会話をつなぐ方法③ (一文付け加える)</b> A: Do you have pets? A: What sports do you like? B: Yes, I do. B: I like soccer. I have two pets. I play soccer on Tuesdays and Saturdays.	
<b>5時間目 会話をつなぐ方法④ (感想を聞く)</b> A: <u>What do you think about Japanese foods?</u> B: It' s good. I like sushi. A: Sushi? Me too. What sushi do you like? B: I like Tuna. How about you? A: Me, too. It' s your turn.	

表8 2時間目の会話つなゲットタイムの流れ

<b>① 教師と児童とのやり取り</b> T: 教師 S1, S2: 児童 T: I like Miyagi. I like the Flower Park. (フラワーパークの写真を見せながら) You can see beautiful flowers. Do you like Miyagi? S1: . . . T: Yes, I do, or no, I don' t. S1: Yes, I do. T: Do you like the Flower Park? S1: Yes, I do. T: What Miyagi do you like? (What places of Miyagi do you like?) S2: I like the Takenoko tower. この後、何人かとやり取りする。
<b>② 児童と児童との会話1</b>
<b>③ 指導</b> <b>○ 会話をつなぐ方法を提示するティーチャートーク</b> 教師が児童との会話の中で、意図的に会話をつなぐ方法を活用し、それを児童に気付かせる。 T: Do you like Miyagi? S1: Yes, I do. T: Oh, you like Miyagi. (繰り返す) That' s nice. (一言感想を言う) Do you like the flower park? S2: Yes, I do. T: Oh, you like the flower park. I see. (一言反応する) 3つの会話をつなぐ方法 (一言感想を言う、一言反応する、繰り返す)を確認し、ホワイトボードに掲示する。 <b>○ 内容・表現確認</b> Miyagi elementary school, Flower park, Miyagi pool, Takenoko tower, Miyagi park, Miyagi gymの写真提示 (内容確認: 図4 宮城地区の場所) 紹介に必要な表現提示 (表現確認: 図4 使えるような表現)
<b>④ 児童と児童との会話2</b> ④の後に、会話をつなぐ方法を使えていたかを児童に聞くことで、使い方に気付かせる。



図4 2時間目の板書

### イ 手立て2における児童の変容についての考察

手立て2を取り入れることで、児童がどのように会話をつなぐ方法を捉えていったかを児童Cのやり取りの姿から考察していく(表9)。

会話1の前に「今日はI likeやYou canを使いますよ」と会話の型を提示していないので、児童Cは、会話の最初に何を話したらよいか分からなかった。児童Dに確認することで、唯一紹介できたのは「I like 宮城小。」だけだった。

会話1の後に会話をつなぐ方法「一言感想を言う」「一言反応する」「繰り返す」を知り、さらに、指導で宮城地区の場所と紹介に使えるような表現(図4)を知り、児童Cは、宮城小について何を紹介しようか考えた。また、会話をつなぐ方法を使ってみようという思いをもっていた。

会話2での児童Cは、児童Dの紹介を受けて、「Nice.」(表9下線部)と相手の会話に一言感想を言うことができた。その感想を受けて、児童Dは紹介をさらに続けていた。会話をつなぐ方法を実際に使い、会話がつながった経験をしたことで、児童Cは3時間目以降のやり取りでも段階的に学んだ会話をつなぐ方法を繰り返し活用していた。そして、7時間目では相手を意識しながら自然な会話の流れの中で会話をつなぐ方法を活用していた(次頁)。児童Cは、会話をつなぐ方法を取り入れることで相手に配慮しながら少しずつコミュニケーションを円滑にする力を高めることができた。

#### (4) 手立て1、2により表出された児童の変容についての考察

手立て1、2により児童がどのように自分の考えや気持ちを表現していったのかを7時間目の児童Cのやり取りの姿から考察していく。

表9 児童Cのやり取りの様子(一部抜粋)

##### ○会話つなゲットタイム(会話1)の様子

- C: 最初何て言うんだっけ
- D: I like って言うんだよ。
- C: I like 宮城小. うーん

##### ○会話つなゲットタイム(会話2)の様子

- C: I like Miyagi elementary school.  
You can play soccer. You can enjoy soccer.
- I like a flower park. You can enjoy athletic.
- D: I like Miyagi park.  
You can play soccer.
- C: Nice. ←一言感想を言う
- D: You can enjoy slider.

7時間目は、「コロンビアのパラリンピック選手に日本独自のもの(場所)を紹介しよう」というテーマで実践を行った。実践の目的は、相手の状況に合わせて紹介する内容を変えながらやり取りができていくのである。特に、7時間目の相手は、日本を知らない外国の人を想定し、相手の好みに合わせて日本独自のものや場所を紹介できることが、目的・場面・状況等に応じて相手に配慮し自分の考えや気持ちを表現できる児童の姿と捉える。

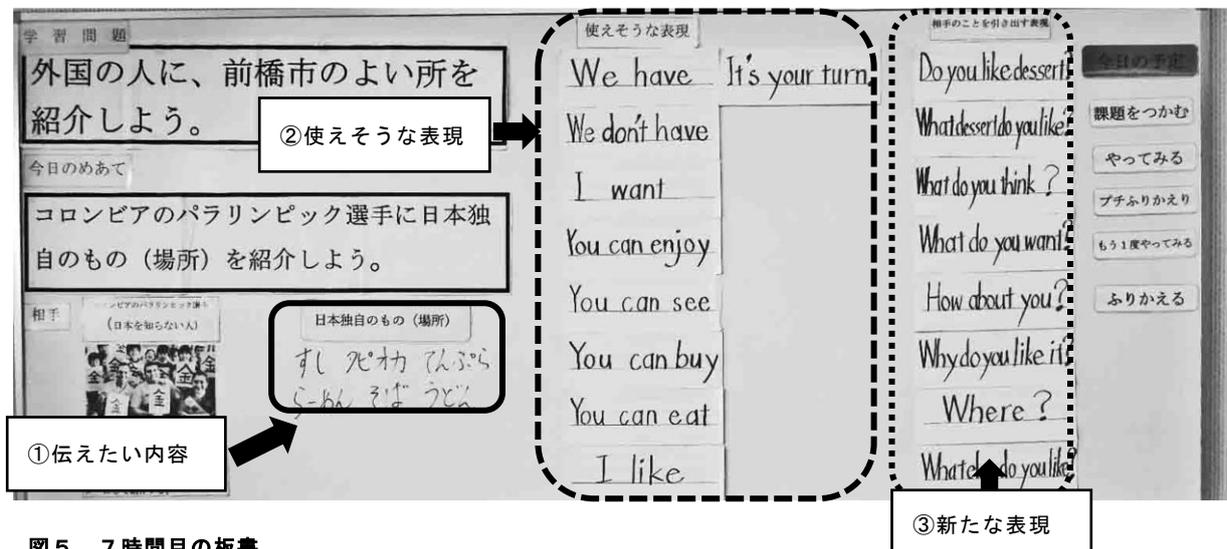


図5 7時間目の板書

### ア 言語活動1における児童Cの思考についての考察

児童Cは、言語活動1前の紹介内容を考える時間で、デザートのお店を紹介しようと考えていた(表10)。しかし、児童Dにデザートが好きかと聞くと好きではないと言われてしまった。そのため、どこを紹介しようかその場で少し考え、別の好みを聞き出そうとした。相手の好みを聞き出してから紹介する方法は、前時「ALTに前橋市のよい所を紹介しよう」で経験している。児童Cは、相手がアイスクリームが好きだと分かると、どんなアイスクリームが好きなのかと会話をつなぐ方法「さらに質問する」を活用して聞いている。そして、ストロベリーアイスが好きだと分かり、相手の好みを具体的に聞き出すことができたうれしさから心を込めて「Nice.」と一言感想を言っており、「そのアイス屋は本当においしいから行ってみてよ」という気持ちを込めて「It's delicious.」と反応した。児童Cは、2時間目では習ったから使ってみよう、「Nice.」を使っていたが、7時間目では、自分の気持ちを相手に伝えるための手段の一つとして、自然と「Nice.」を使っていた。

表10 児童Cのやり取りの様子(一部抜粋)

○言語活動1の様子	
C:	Do you like sweets?
D:	No, I don't.
C:	<u>Do you like ice (cream)?</u> ← さらに質問する
D:	Yes, I do.
C:	<u>What ice (cream) do you like?</u> ← さらに質問する
D:	I like strawberry ice (cream).
C:	<u>Nice.</u> ← 心を込めて一言感想を言う
	We have ice (cream) shop.
	You can enjoy ice (cream).
	<u>It's delicious.</u> ← 文付け加える

### イ 言語活動2での児童Cの思考についての考察(表11)

中間評価で、日本を知らない外国の人にどんなことを紹介したらよいかと問い、日本独

自のものを紹介したいという考えが児童から出され、「寿司、てんぷら、ラーメン」(図5①伝えたい内容)など児童の意見から日本独自のものを提示した。

児童Cは、中間評価を受けて、日本独自のものとして、服とラーメンを紹介したいと考えていた。言語活動2では、最初に、児童Eがビデオ屋を紹介し、「How about you?」と聞かれたので、映画という語彙に関連付けて、映画館を紹介していた。また、服を紹介したいので、買い物が好きかと聞いたところ、児童Eから好きではないと言われた。普段から仲の良い児童Eが買い物を嫌いだとは思わなかった児童Cは、「Really? Why?」と本当に驚いて反応していた。その後、ラーメンを紹介する予定であったことを思い出し、相手の好みを聞いてみた。すると、相手がラーメン好きだと分かり、やっと自分の紹介したい場所が伝えられるうれしさから、「You like ramen. Nice.」と返答していた。言語活動1での児童Cのやり取りでは、相手の好みを聞くことはできたが、日本を知らない人への紹介という相手意識が希薄であった。中間評価を経て、相手意識をさらに高めることができ、児童Cは相手に配慮しその場で考えながら日本独自のものを紹介することができた。児童Cの振り返りからも、日本独自のものを考えながらやり取りを行っていたことが分かる(図6)。

表11 児童Cのやり取りの様子(一部抜粋)

○言語活動2の様子

E: Do you like movies?  
 C: Yes, I do.  
 E: Nice. We have a video store. You can enjoy movies.  
 How about you?  
 C: We have a movie theater in Maebashi.  
 E: I see. ↑前の内容と関連付けた  
 C: You can see movie. Do you like shopping?  
 E: No, I don't.  
 C: Really? Why?←驚いて反応した  
 E: 混んでいるから。  
 C: I see. Do you like ramen?  
 E: Yes, I do.  
 C: You like ramen. Nice.←うれしくて返答した  
 We have a ramen shop in Maebashi.

10/21	コロニアのバカリニビツの選手に日本独自のもの(場所)を紹介しよう。	楽しく取り組めた	A B C	日本の知、てなさるうな所を
		進んで話したり	A B C	考えながら紹介できたと思
		聞いたりできた	A B C	います。
		めあてを達成できた	A B C	回 内容

図6 児童Cの振り返り

ウ 児童Cの思考を助けた手立て1、2の有効性についての考察

児童Cは、中間評価で相手が日本を知らない人であることを再確認し、相手が知らない日本独自のものを紹介する必要性に気付き、日本独自の場所として、「ラーメン店」を紹介した。そのように言語活動2で自信をもってやり取りができた要因は2つあると考えられる。1つ目は、自分で話す内容を考え、言語活動1で児童Dに相手の好みを聞きながら相手に合った場所を紹介する成功体験があったこと。2つ目は、言語活動1の成功体験と中間評価での気付きを関連付けることで相手意識をさらに高め、日本を知らない人に日本独自のものを紹介するという目的・場面・状況等に応じて対応できたこと。これらのことから、手立て1が、目的・場面・状況等に応じて自分の考えや気持ちを表現することに有効であることが分かる。また、会話をつなぐ際には、自然と会話をつなぐ方法を活用していた。相手が自分の想像を超える返答をした際には、Really? (一言反応する)、Why? (さらに質問する)を活用したり、相手の話を聞いてYou like ramen. (繰り返す)、Nice. (一言感想を言う)などと対応したりしている。児童Cは、会話をつなぐ方法を意識してやり取

りに取り入れてきた経験から、会話をつなぐためには、相手に配慮しながら会話をつなぐ方法を使っていくことが大切であることに気付いたと考える。その結果、相手の様子や状況に応じて、自然な会話の流れの中で、会話をつなぐ方法を活用でき、コミュニケーションを円滑にする力が大きく高まったと考える。このことから、手立て2が有効であることが分かる。手立て2で相手意識を高めながらやり取りをできるようになったことで、手立て1の言語活動でも相手に配慮し、その場で考えながらやり取りすることができた。その結果、目的・場面・状況等が変化しても相手の状況に配慮して自分の考えや気持ちを表現することができた。このことから、手立て1、2を活用することで自分の考えや気持ちを表現することができたと考える。

## VI 研究のまとめ

### 1 研究の成果

本研究では、自分の考えや気持ちを表現できる児童の育成を目的に実践を行ってきた。自分の考えや気持ちを表現するためには、目的・場面・状況等の異なる言語活動を多く取り入れ、その言語活動の中で児童が考えながら、表現できるような機会を多く設定していくことが大切である。本研究において、児童が考えながら表現している姿は、図7のとおりである。2人の児童に共通するのは、相手の話を聞いて、相手の言葉に合わせてその場で考えながら表現しているという点である。その場で考えながら話をする力が付いたことで、会話を長く続けられるようになり、自信をもって英語を話している児童が多く見られた。このことは、アンケートの結果（図8）からも分かる。図7のような自分の考えや気持ちを表現できる児童を育成するためには、ただ言語活動を行うのではなく、手立て1、2を用いて相手に配慮し児童がその場で考えながら表現することが必要である。手立て1、2がどのように有効であったかを次から論じていく。

#### (1) 手立て1の有効性について

図9は児童Dの8時間目の振り返りである。児童Dの2～4時間目の振り返りでは、「前回より表現が使えた。I want が使えた」と手立て1で児童の必要感に応じて提示した必要な表現を活用している姿が見られた。また、「前回より」というように前時の自分と比較し

この単元で学んだ表現を使って、何ができるようになりましたか。
相手の好みなどを聞き出して、相手にあった場所がいろいろな表現を使って、外国人に日本の事を分かりやすく説明ができたと思う。
この単元で学んだ表現を使って、何ができるようになりましたか。
今まで続かなかった会話が How about you? などを使って話を長くすることができた。さらに質問をして相手の好みを探り出しながら会話をより長く続けるようにした。日本独自の事を考え、頭の中で整理しながらできました。

図7 8時間目の児童の振り返りから

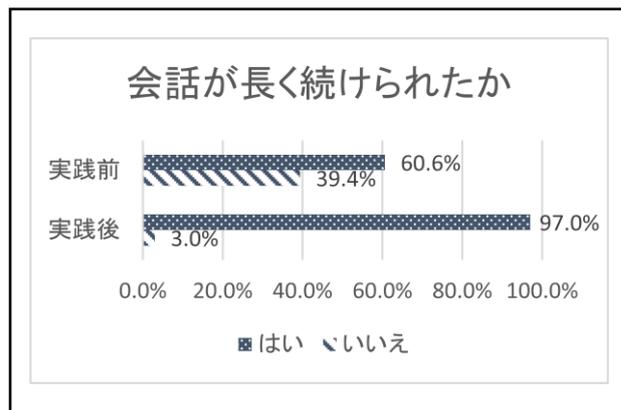


図8 アンケート結果

この単元で学んだ表現を使って、何ができるようになりましたか。
最初はぜんぜん言えなかつたけど、言えるようになってきて相手はわかりやすいように伝えられるようになってきた。たんだん相手の気持ちも考えられるようになってきた。

図9 8時間目の児童Dの振り返り

ながら成長を実感して捉えている。そのような児童の姿が見られたのは、手立て1の学習活動を通して、1単位時間の中で児童が捉えた困り感を試行錯誤しながら児童自らが解決していく経験を、毎時間繰り返し行っていく中で、少しずつ自分の考えや気持ちが表現できるようになったという自分の成長を児童自身が自覚できたからである。そのことは、児童Eの振り返り(図10)からも分かる。児童Eも、1時間目の振り返りでは、「分からないことをもっと分かるようにしたい」とうまく言えたことよりも言えなかったことが多かった。それが、2時間目以降は、その困り感を解消するために行った中間評価を活用し、伝えたい内容や必要な表現を意識して言語活動に取り入れたことで、少しずつ自分の考えや気持ちが表現できるようになっていることを実感していた。中間評価が児童の学びの助けになったことは、アンケート結果(図11)からも分かる。約70%の児童が、言語活動1で感じた困り感を解消して言語活動2につなげる中間評価が役立ったと答えている。本研究では、見通しをもたせ、できることできないことを児童が捉える言語活動1を行ったことで中間評価が生かされ、言語活動2では自信をもって自分の考えや気持ちを表現できるようになった。このことから手立て1が有効であったと考える。

## (2) 手立て2の有効性について

手立て2では、会話つなゲットタイムを活用し、会話をつなぐ方法を段階的に指導した。児童に、会話をつなぐ方法を意識させながら言語活動を行ったことで、図11のとおり、児童にとって場所を紹介するために最も有効な方法と捉えられていた。図12から、「一言感想を言う」「さらに質問する」などを活用することで、相手の話をよく聞きその場で考えながら会話を長く続けることができた様子が伺える。児童は、やり取りしている相手との間に沈黙が生まれるとさらに質問をしたり、自分の場所の紹介に対して相手から感想をもらったりと、相

この単元で学んだ表現を使って、何ができるようになりましたか。  
 「You can buy」「You can eat」など、自分が言いたいことが伝えられるようになった。最初の時間では、自分の言いたい表現が伝えられなかった。でも、やっていくにつれて、使う表現がどんどん増えていった。会話がはずむようになった。

図10 8時間目の児童Eの振り返り

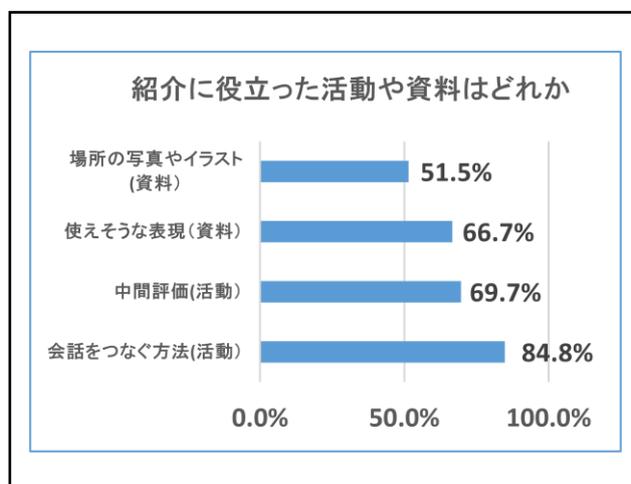


図11 アンケート結果2

この単元で学んだ表現を使って、何ができるようになりましたか。  
全員のつなげ方、1人1人単語、感想や相手への質問のしかたを  
学んだことで、より英語が上手になることができた。

この単元で学んだ表現を使って、何ができるようになりましたか。  
外国人の人に「好きなもの」を聞いて日本語で自分のものを紹介できるようにになった。  
自分の好きな場所や食べ物について長い時間話  
わてきた。

図12 8時間目の児童の振り返り

この単元で学んだ表現を使って、何ができるようになりましたか。  
使えるような表現と相手の事を引継ぎ表現を使い自分から相手に伝えるようになった事と  
相手から何しているか何をきかれているか分かるようになった。相手は何が嬉しいかきいて  
場所を紹介して貰ったので、相手も反応して貰った。

図13 8時間目の児童Fの振り返り

手意識を高めながら会話をつなぐ方法を使えるようになった。図 12 の 2 人の児童の 5 ～ 8 時間目の振り返りを見ると、「ALT のために」「コロンビアのパラリンピックの選手のために」など、相手に配慮してやり取りを行っている様子が伺える。相手意識が高まったのは、会話をつなぐ方法を活用することで、相手のことをもっと知りたいという思いが高まったことが要因である。このことは、児童 F の振り返り（図 13）からも分かる。相手のことが分かるようになったことでもっと相手のことを知りたいという気持ちでやり取りしている様子が伺える。相手を知りたいという相手意識を高めながらやり取りを行うことで、児童は自然な流れの中で会話ができるようになり、コミュニケーションを円滑にする力が大きく高まった。その力を手立て 1 で活用することで、相手に配慮しその場で考えながら自分の考えや気持ちを表現できるようになった。そのことから手立て 2 が有効であったと考える。

### (3) 研究を通して

本実践では、児童に決まった会話の型を与えず、児童の気付きを生かして目的・場面・状況等の異なる言語活動を多く取り入れたことで、少しずつやり取りの質の向上を図ってきた。言語活動の中で、児童はどうやって場所を紹介するやり取りを向上させていったのか。それは、児童自身が必要だと捉えた伝えたい内容や、必要な表現、会話をつなぐ方法などの知識・技能を自由に活用し、相手に配慮して考えながら表現していく経験を多く積み上げたことが重要であったと考える。そのためには、1 単位時間に自分の考えや気持ちを表現できる言語活動を多く取り入れることが必要であり、その言語活動を効果的に運用できるように学習活動を工夫し、児童が試行錯誤しながら知識・技能を身に付けていくことが大切である。児童が必要だと捉えた内容や表現は、パターンプラクティス等を活用しなくても、児童自身が自然と自分のものにして活用できることが本実践を通して分かった。そして、自分のものになった内容や表現だからこそ、目的・場面・状況等が異なる言語活動でも、相手に配慮し話す内容をその場で考えながら表現することができるのである。

以上のことから、「考えながら伝え合う学習活動」と「会話をつなぐ指導」は、「自分の考えや気持ちを表現できる児童の育成」に有効であったと考える。

## 2 今後の課題

今回の研究で多くの児童は、授業を重ねるごとに自分の考えや気持ちを表現する力が高まった。しかし、児童によっては自分の好みの表現にとらわれ、同じ表現を使い続けてしまったり、表現する力が高まらず停滞したまま進んでしまったりした場面もあった。児童が自分の進歩を実感しながら成長していくためには、児童それぞれの困り感を見取り、その困り感に応じてアドバイスをしたり、その困り感に対し児童同士で助け合ったりする場面を設定することが大切である。効果的な場面設定のためには教師の見取りを高める必要がある。そのためには、教師自身が、児童一人一人のよい点や進歩の状況を積極的に評価し、児童に還元していく機会を多くすることが大切である。

#### <参考文献>

文部科学省	小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説	外国語活動・外国語編	2018
群馬県教育委員会義務教育課	はばたく群馬の指導プランⅡ	令和元年 8 月	
大城賢	『小学校新学習指導要領ポイント総整理外国語』	東洋館出版	2018
山田誠志	『自分の本当の気持ちを「考えながら話す」小学校英語授業』	日本標準	2018

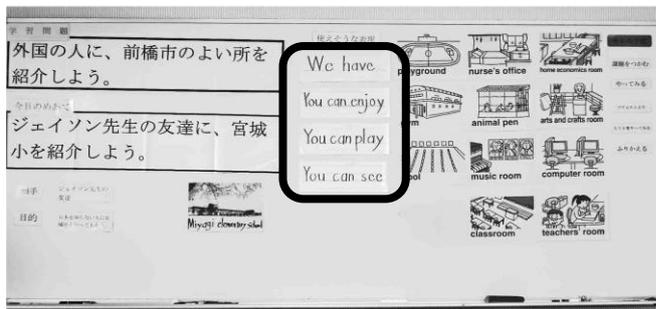
資料1 第6学年 I like my town (We can!2 unit4)の指導計画 (全8時間)

時間	主な学習活動	指導上の留意点・支援	評価項目 (評価方法) ＜研究との関わり＞
1 つ か む	○児童と共に学習問題を 設定し、必要な表現を考 える。 学習問題 「外国の人に前橋市のよ い所を紹介しよう」  学習課題 「ALTの友達に宮城小の よい所を紹介しよう」	・ JTE と ALT がロールプレ イを見せることで、場面 設定、目的意識・相手意識 を児童に捉えさせなが ら、学習問題を設定する。 ・ 紹介に必要な表現を考え る際に、JTE と ALT とのロ ールプレイから表現を捉 えられるようにする。 ・ 紹介に必要な表現や伝え たい内容を児童が選びな がらやり取りが行えるよ うに、英語短冊やピック チャーカード等を黒板に掲 示する。	【思】学習問題解決に 必要な表現を考えなが らやり取りしている。 (やり取り)  ＜評価をどう生かすか＞ 児童が捉えた表現 をどのように活用 しているかを見取 り、児童のよさを 全体で共有する。  ＜研究との関わり＞ ○学習問題を解決する ために必要な表現を 考える。
2 ～ 4 慣 れ 親 し む	○町を紹介する表現に、 慣れ親しむことができ る。 ＜会話に必要な表現＞ We have～ We enjoy～ing We can We want We can see We can eat We can buy	・ 「つかむ」段階で必要な表現を 書いた短冊を掲示しながら表 現に慣れ親しませていく。 ・ 児童が、やり取りの見通しをも てるように、ティーチャート ークを行う。 ・ 目的・場面・状況等を変更しな がら、繰り返し言語活動が行え るように、毎時間言語活動の時 間を多く確保する。 ・ 教科書を活用して、We have, We don' t have, We enjoy, We can, We wantなど の表現に慣れ親しませながら 問題解決に必要な表現を考え られるようにする。	【知】町を紹介する表 現を使って会話をする ことができる。 (やり取り、振り返り シート) ＜研究との関わり＞ ○会話をつなぐ方法を 段階的に学び、それを 活用している。 ○目的・場面・状況等 を変えながら、繰り返し 言語活動を行う。  ＜評価をどう生かすか＞ 児童が捉えた表現 をどのように活用 しているかを見取 り、児童のよさを 全体で共有する。

<p>5 理 解 す る</p>	<p>○相手に配慮した紹介の内容を考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手とのやり取りの機会を確保し、中間評価で伝えたい内容や必要な表現に気付かせながら紹介内容を考えられるようにする。</li> <li>・紹介内容を覚えるのではなく、相手との応対でその場で考えて答えたり、相手の好みを聞いてから場所を紹介したりする。</li> </ul>	<p><b>【主】</b>ALTに伝えたいという思いをもって紹介内容を考えている。 (やり取り、振り返りシート) ＜研究との関わり＞ ○前橋市に住んでいるALTに配慮しながら紹介内容を考える。</p>
<p>6 ～ 8 活 用 す る</p>	<p>○前橋市のよい場所をALTに紹介することができる。</p> <p>○別の目的・場面・状況等を設定し、相手に合わせてやり取りを行うことができる。</p> <p>「前橋市のよさをコロンビア共和国のパラリンピック選手に紹介するビデオレターを作ろう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間評価により、自分の表現を修正しながら紹介できるようにする。</li> <li>・児童の困り感を見取り全体で共有することで、児童全体のやり取りの質の向上を図る。</li> <li>・日本を知らない相手に紹介するため、日本独自のものを全体で共有する。</li> <li>・今まで使える表現が活用できることを確認しつつ、相手に配慮しながら必要な表現を考えて、前橋市の素晴らしさを伝えられるようにする。</li> <li>・相手に好みを聞きながら相手にあった日本独自のものを紹介できるようにする。</li> <li>・ビデオレターの撮影では相手の発表に反応したり、質問したりしながら全員でビデオレターを作っている場面を設定する。</li> </ul>	<p><b>【思】</b>ALTの好みを聞いてから、前橋市のよさを紹介している。 (やり取り、発表、振り返りシート)</p> <p><b>【思】</b>コロンビア共和国のパラリンピック選手たちに配慮して前橋市のよさを紹介している。 (やり取り、発表、振り返りシート) ＜研究との関わり＞ ○相手の好みを聞いて好みに合った日本独自の場所を紹介する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>＜評価をどう生かすか＞ 児童のやり取りの様子から知識・技能を活用して日本独自のものを紹介している様子を記録する。</p> </div>

資料 2 板書内容と児童がやり取りに活用した会話に必要な表現（全 8 時間）

1 時間目の板書



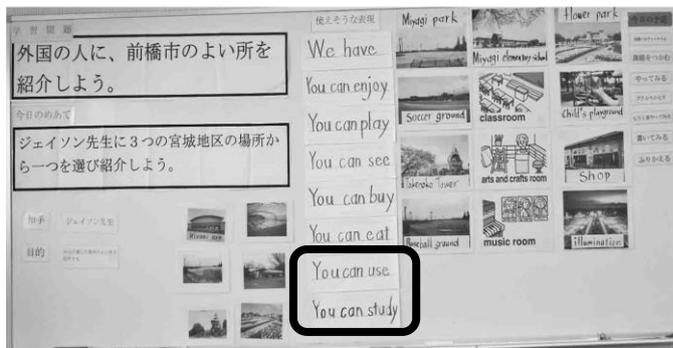
必要な表現（英語短冊）  
 We have, You can enjoy, You can play, You can see, You can study, You can eat

2 時間目の板書



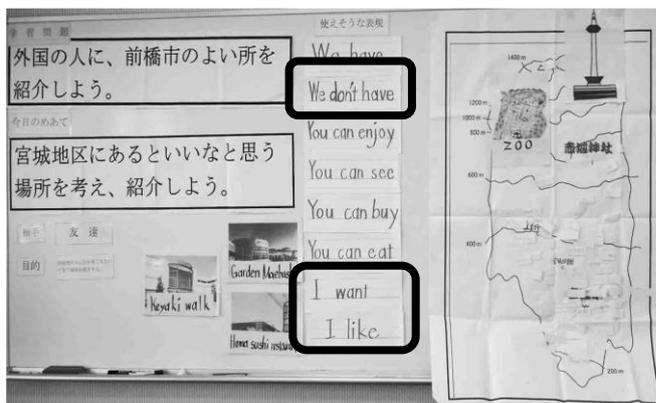
必要な表現（英語短冊）  
 We have, You can enjoy, You can play, You can see, ※You can buy, You can eat, You can swim  
 ※下線は前時より増えた表現

3 時間目の板書



必要な表現（英語短冊）  
 We have, You can enjoy, You can play, You can see, You can eat, You can buy, You can use, You can study,

4 時間目の板書



必要な表現（英語短冊）  
 We have, You can enjoy, You can play, You can see, You can study, You can eat, You can buy, You can use, We don't have, I want, I like, I want,

### 5 時間目の板書



必要な表現 (英語短冊)  
 We have, You can enjoy, You can play, You can see, You can study, You can eat, You can buy, You can use, I like  
 I want, We don't have

### 6 時間目の板書



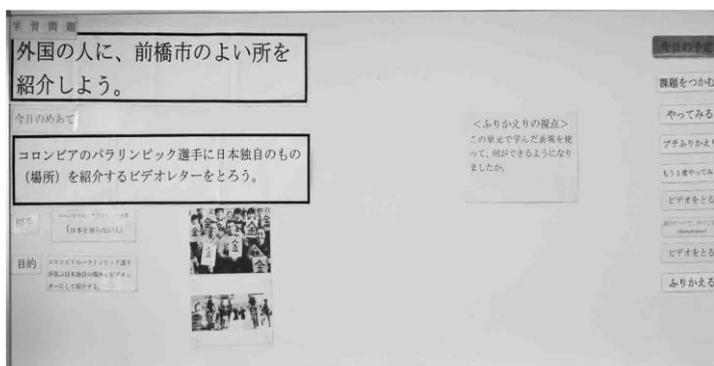
必要な表現 (英語短冊)  
 We have, You can enjoy, You can play, You can see, You can study, You can eat, You can buy, You can use, I like  
 I want, We don't have

### 7 時間目の板書



必要な表現 (質問表現)  
 Do you like? What do you like? Why do you like it? What do you want? How about you? What else do you like?  
 紹介に必要な表現は6時間目と同じ

### 8 時間目の板書



必要な表現 (英語短冊)  
 7時間目と同じ